

## 5-2 社会階層と不平等教育研究拠点（グローバルCOEプログラム）

### 研究・教育活動の概要と特色

本拠点の目的は、21世紀COEプログラムによって形成した社会階層と不平等研究教育拠点における教育研究活動とわが国において過去半世紀以上にわたる社会階層研究の成果を基盤にして、格差問題を中心にした社会階層と不平等の教育研究を世界的に展開することである。社会階層と不平等とは、社会を構成する集団間で望ましい資源（収入や財産など）やそれを得る機会が不平等に配分されていることを示す概念である。そして近年、社会問題となっている格差問題は、まさに社会階層と不平等が端的に現れている社会現象である。この格差問題をめぐっては次の3つの問題群がある。

(1)格差の実態を解明する実証問題、(2)格差を生み出すメカニズムを解明する理論問題、(3)格差がもたらす社会的影響を解明し、政策提言を視野に入れた帰結問題の3つである。これらの問題群に学際的・融合的に取り組むために、社会階層と不平等の構造と変動研究部門、東アジア研究部門、マイノリティ研究部門、公正研究部門、国際移動研究部門の5つの研究部門を設置する。各研究部門における研究活動に加えて、拠点全体のワークショップや国際シンポジウムを通じて、研究部門間の有機的連携を推進する。またスタンフォード大学貧困と不平等研究センターとの貧困の国際比較プロジェクトを立ち上げ、絶対的貧困から見た格差の問題群にも迫る。

教育面においては、COEフェロー（ポスドク研究者）を世界的公募により採用し、COE大学院生を公募により採用する。そしてこれらの若手研究者に対して、正副アドバイザーによる複眼的指導、COE特任助教によるきめ細かい研究指導、ワークショップにおける英語での報告、国際学術交流協定を活用した留学の奨励、国際シンポジウム開催の奨励、独立した研究を推進するためのCOE特別研究奨励費支給、リサーチアシスタント雇用による経済的保障、連携機関であるスタンフォード大学貧困と不平等研究センターと共催するサマースクールへの参加、などの教育プログラムを提供し、それらを通じて「世界で活躍する、タフで独創的な人材」を輩出することを目指す。

### 組織

#### 1 教員数（2011年9月末現在）

准教授：1

助教：3

研究員（リサーチフェロー）：4

准教授：竹中歩

助教：李賢鮮、今井順、中室牧子

研究員：松崎瑠美、金在宇、謝曉静、マリナス・ダヴィド＝アントアヌ

## 2 GCOE 事業推進担当者など（2011年9月末現在）

氏名	所属部局・職名
佐藤 嘉倫	文学研究科・教授
大淵 憲一	文学研究科・教授
長谷川 公一	文学研究科・教授
秋永 雄一	教育学研究科・教授
大藤 修	文学研究科・教授
鈴木 岩弓	文学研究科・教授
沼崎 一郎	文学研究科・教授
木村 邦博	文学研究科・教授
木村 敏明	文学研究科・准教授
辻本 昌弘	文学研究科・准教授
下夷 美幸	文学研究科・准教授
野村 正實	経済学研究科・教授
川端 望	経済学研究科・教授
李 仁子	教育学研究科・准教授
浜田 宏	文学研究科・准教授
三輪 哲	教育学研究科・准教授
川口 幸大	文学研究科・准教授
永吉 希久子	文学研究科・准教授
デビッド・グラスキ	スタンフォード大学貧困と不平等研究センター・所長 社会学部・教授

### 3 大学院生数 (2011年度は9月末現在)

2008年度	大学院博士後期課程	10人
2009年度	大学院博士後期課程	11人
2010年度	大学院博士後期課程	13人
2011年度	大学院博士後期課程	12人

#### プログラム開始から現在までの教育活動

大学院生を学内公募により採用し、研究員を世界的公募により採用した。彼らに対して次にあげる支援を行っている。

- (1) 優れた大学院生はRAとして雇用している。
- (2) 大学院生・研究員の優れた研究計画に研究奨励費を支給し、独立した研究ができるようにしている。
- (3) 正副アドバイザー制度をとり、複眼的な研究ができるようにしている。
- (4) 英語論文作成を含むCOE授業科目からなる「社会階層と不平等教育研究拠点」コースを設置し、幅広い学識を得るようにしている。
- (5) 海外から優れた研究者を客員教授として招聘し、コースの授業科目を担当してもらっている。
- (6) 英語によるワークショップでの報告を義務づけ、研究成果の海外発信のトレーニングを積ませている。
- (7) 海外の優れた大学と共同で若手中心のシンポジウムを開催し、若手間の交流を進めるとともに、(上記ワークショップと同様に)研究成果の海外発信のトレーニングを積ませている。
- (8) COE大学院生に優れた博士論文を執筆させるために、2009年度と2010年度にスタンフォード大学貧困と不平等研究センターとサマースクールを共催した。2011年度は東日本大震災の影響で夏に開催することができなかったので、12月にスタンフォード大学で開催する予定である。

#### 教員・研究員の研究活動 (プログラム開始から2011年度末)

##### 1 教員・研究員による論文発表等

###### 1-1 論文

Ayumi Takenaka, "How Diasporic Ties Emerge: Pan-American Nikkei Communities and the Japanese State," *Ethnic and Racial Studies*, 32(8), 1325-1345, 2009.

- Ayumi Takenaka, "Ethnic Hierarchy and Its Impact on Ethnic Identities: A Comparative Analysis of Peruvian and Brazilian Return-Migrants in Japan" in Tsuda, Takeyuki (ed.), *Diasporic Homecomings: Ethnic Return-Migrations in Comparative Perspective*, Stanford University Press, 260-280, 2009.
- Ayumi Takenaka, "How Ethnic Minorities Experience Social Mobility in Japan: An Ethnographic Study of Peruvian Migrants" in Ishida, Hiroshi and David Slater (eds.), *Social Class in Contemporary Japan*, Routledge, 221-238, 2009.
- Ayumi Takenaka, "Introduction: Peruvian Migration in a Global Context" (with Karsten Paerregaard and Ulla Berg), Co-editor, special issue on Peruvian migration, *Latin American Perspectives*, Vol.37, Pp.3-11, 2010.
- Ayumi Takenaka, "Determinants of Emigration: Comparing Migrants' Selectivity from Mexico and Peru" (with Karen A. Pren), *The ANNALS of the American Academy of Political and Social Science*, V.630, Pp.178-193, 2010.
- Ayumi Takenaka, "Factores determinantes de la emigración: La selectividad migratoria en Perú y México" (Spanish version of the above) (with Karen A. Pren) in Donato, Katharine et al. (eds.), *Migrations in the Americas*, Porrua Press, Pp.193-208, 2010.
- Ayumi Takenaka, "Leaving to get ahead: assessing the relationship between mobility and inequality in Peruvian migration" (with Karen A. Pren), *Latin American Perspectives*, Special Issue on Peruvian Migration in a Global Context, 37(5): Pp.29-49, 2010.
- 竹中歩「国際化の中の日本の留学生」、『人口変動の新潮流への対処- 在日外国人をめぐる資料集』（仮題）笹川財団報告書 2011 年（Revised version will be published in Akashi, Junichi (ed.), *Foreign Migrants in Japan*）
- Ayumi Takenaka, "The Role of Ethnicity in International Migration: The Re-Migration of Latin Americans from Japan to the U.S." in N. Yoshihara (ed.), *Global Migration and Ethnic Communities in Asia*, Trans-Pacific Press, Forthcoming, 2011.
- Ayumi Takenaka, "How Contexts of Reception Matter: Comparing Peruvian Migrants' Economic Trajectories in Japan and the U.S." (with Karsten Paerregaard), *International Migration*, Forthcoming, 2011.
- Ayumi Takenaka, "Re-Migration of Immigrants to the United States," M.L. LeMay (ed.), *Immigration History*, ABC-CLIO, Forthcoming.
- 熊谷智博・大淵憲一「非当事者攻撃に対する集団同一化と被害の不公正さの効果」、『社会心理学研究』24号、日本社会心理学会、200-207、2009年2月
- 熊谷智博「加害者集団の実体性が非当事者攻撃に与える影響」、『文化』、東北

大学文学会、2010年3月

Lee, Hyun Sun, "Diversifying Korean Populations in Japan and a New Type of Ethnic Movement," *Minorities and Diversity*, Trans Pacific Press, 51-66, 2011.

Imai, Jun. "The Expanding Role of Temporary Help Agencies in Japan's Emerging External Labor Market," *Japanese Studies*, Routledge, Vol.29, No.2, pp. 255-271, 2009.

Imai, Jun and Yoshimichi Sato. "Regular and Non-Regular Employment as an Additional Duality in Japanese Labor Market: Institutional Perspective on The Career Mobility," *Japan's New Inequality*, edited by Sato Y., and J. Imai, Melbourne, Trans Pacific Press, 1-31, 2011.

Imai, Jun. "The Limit of Equality by 'Company Citizenship': Politics of Labor Market Segmentation in the Case of Regular and Non-Regular Employment in Japan," *Japan's New Inequality*, edited by Sato Y., and J. Imai, Melbourne, Trans Pacific Press, 32-53, 2011.

今井順・林雄亮「移動レジームの変化についての試論 - 産業構造転換と規制緩和のなかで」『現代日本の階層状況の解明 - ミクロ-マクロ連結からのアプローチ』、科学研究費補助金基盤研究 A 研究成果報告書（研究課題番号 20243029）、pp. 75-91、2011年

今井順「日本の長期雇用制度と男性基幹労働者の働き方：変化と持続（仮題）」、『生き方はどこまで選べるのか～日本とドイツにおけるライフコースの変化』、ドイツ日本研究所・明治大学ジェンダー研究所編 新曜社、2012年  
中室牧子「就学前児童の健康状態が教育に与える影響について 諸外国のデータを用いた実証研究のサーベイ」『海外社会保障研究』（星野絵里との共著）73号、61-70頁、2010年

Makiko Nakamuro, "Schooling and Migrant Remittances in Transition Economies: The Case of Albania and Tajikistan," *International Development Planning Review*, Vol.32, No.3, 333-361, 2010

中室牧子「移民と送金の就学への影響：南アフリカの事例から」『国際開発研究』19巻第2号、1-11頁、2010年

Makiko Nakamuro, "Mobility of Skilled Labor in Transition Economies: The Perspectives from Brain-Drain, Brain-Waste, Brain-Circulation and Brain-Gain," *Journal of International Cooperation Studies* (with Keiichi Ogawa), Vol.18, No.1, 71-84, 2010

中室牧子「ランダム化フィールド実験による教育プロジェクトの費用効果分析 -

- ケニアを事例に - 』『国際教育協力論集』(小川啓一・星野絵里との共著)  
12 巻第 2 号、29-42 頁、2010 年
- Makiko Nakamuro, “What Kinds of Educational Inputs Foster the Completion of Primary Education?: the Case of Kagera Region of Tanzania,” *Comparative Education*, Vol.40, 24-43, 2010
- 中室牧子「移民と送金が就学率にあたる影響について：タジキスタンの家計調査を用いた実証研究」『国民経済雑誌』(小川啓一との共著) 201 巻第 6 号、67-84 頁、2010 年
- 寺本渉・吉田和博・浅井暢子・日高聡太・行場次朗・鈴木陽一「臨場感の素朴な理解」、『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』第 15 巻(1 号)、日本バーチャルリアリティ学会、Pp.7-16、2010 年 3 月
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子『文化』第 73 号(3・4 号)、東北大学、Pp.83-99、2010 年 3 月
- 寺本渉・吉田和博・日高聡太・浅井暢子・行場次朗・坂本修一・岩谷幸雄・鈴木陽一「『迫真性』を規定する時空間情報」、『日本バーチャルリアリティ学会論文誌』第 15 巻 3 号、2010 年 9 月
- 川嶋伸佳・大淵憲一・熊谷智博・浅井暢子「社会的な不平等とミクロ公正感：不正感受性の効果」、『法と心理』11(1)、pp.95-105、2011 年
- Jaok KWON, “Forging Women’s Space in Civil Society: A Case Study of the Korean Catholic Women Peasant’s Organization,” Pacific-Asia Conference on Korean Studies, The University of Auckland, New Zealand, 2010.
- Rumi Matsuzaki, “Women's Roles and Gender Order in Early Modern and Modern Japan,” *Minorities and Diversity*, Kunihiro Kimura (ed.), Trans Pacific Press, pp31-50, 2011.
- Kim, Jae-Woo and Robert A. Hanneman, “Co-evolutionary Dynamics of Cultural Markers, Parochial Cooperation, and Networks,” Revised (minor revision requested) and resubmitted to *Journal of Conflict Resolution*. (Expected to be published at the end of 2011)
- Kim, Jae-Woo and Robert A. Hanneman, “A Computational Model of Workers Protest,” *Journal of Artificial Societies and Social Simulation*, 14(3), 2011
- Kim, Jae-Woo, “Evolution of Cultural Groups and Persistent Parochialism,” *Structure and Dynamics: eJournal of Anthropological and Related Sciences*, 4(2), 2010
- マリナス・ダヴィド＝アントアヌ「反貧困運動をどう見るか・世代間の連帯にむ

けて」、『現代の理論』20号、pp.161-169、2009年

Malinas, David-Antoine, “Analyse du renouveau militant de la société japonaise – Le mouvement des sans-abri de Shinjuku à Tokyo” (「日本における市民・社会の再生 東京・新宿のホームレス運動の例を通して」), Ebisu39号 p.57-78, 2009. 査読有

Malinas, David-Antoine, “Analyse des contraintes et conditions à l’émergence d’un mouvement des plus précaires : le cas du mouvement de défense des sans-abri au Japon”(「最貧困者の運動発生の制限と条件：日本におけるホームレス運動の事例から」), Le Mouvement Social, 230号, pp67-80, 2010. 査読有.

Malinas, David-Antoine, “Sans-abri au Japon : les limites du système d’assistance” (「日本におけるホームレスに対する保護制度の限界」), information sociale, Paris, CAF, Forthcoming

## 1-2 著書・編著

Ayumi Takenaka, “Global Peruvian Migration,” Special Issue on Peruvian Migration (with Ulla Berg and Karsten Paerregaard), Latin American Perspectives, Vol.37, No.5, 2010.

Ayumi Takenaka, “Global Philadelphia: Immigrant Communities, Old and New,” Co-editor (with Mary Osirim), Philadelphia: Temple University Press, 2010. (320 pages in total)

Lee, Hyun Sun, “Japanese Social Welfare: The Development of Diversity,” London: Routledge, Forthcoming, 2012.

Imai, Jun, “The Transformation of Japanese Employment Relations: Reform Without Labour, Houndmills,” Palgrave Macmillan, 2011.

Sato Y., and J. Imai (eds.), “Japan’s New Inequality: Intersection of Employment Reforms and Welfare Arrangements,” Melbourne, Trans Pacific Press, 2011.

権慈玉「韓国における朴正熙政権の開発主義と家族計画事業」木本喜美子・貴堂嘉之編『ジェンダーと社会 男性史・軍隊・セクシュアリティ』（共著）、旬報社、2010年6月。

Malinas, David-Antoine, “les voies souterraines: le mouvement des sans-abri à Tokyo, Shinjuku,” L’Harmattan, 2009.

マリナス・ダヴィド＝アントアヌ『女性の貧困化に社会はどう立ち向かうのか：グローバル危機の中での日仏比較』（共同編集者）、東京大学社会科学研究所

所、pp.175、2010年

Malinas, David-Antoine, “L’action collective des sans-abri au Japon et le renouveau du militantisme” (「日本におけるホームレス運動と市民運動の再生」), L’harmattan, 2010

Malinas, David-Antoine, “Le mouvement des sans-abri au Japon – le renouveau du militantisme,” Paris, L’Harmattan : pp.413, 2011

Malinas, David-Antoine, “Homelessness in Japan: Corporate welfare limits in an aging society,” Japan’s New Inequality in Sato Y., and J. Imai (eds.), Melbourne, Trans Pacific Press, 132-147, 2011

Malinas, David-Antoine, “Public Policies toward Homeless and the Politicization of Civil Society in Japan” in Toward a society without exclusion, Melbourne, Trans Pacific Press, Forthcoming

### 1-3 翻訳、書評、解説、辞典項目等

熊谷智博『社会心理学事典』(「民族紛争」の項執筆)大坊郁夫他編著 丸善、2009年3月

松崎瑠美「畑尚子著『徳川政権下の大奥と奥女中』」、『民衆史研究』第81号、民衆史研究会、2011年5月。

Malinas, David-Antoine, and Giraudou, Isabelle. “Japon, grand pays de la pauvreté accrue par le système de redistribution” par Mari Osawa (再分配が作り出す貧困大国ニッポン), dans La société face à la pauvreté des femmes : comparaison France-Japon à l’heure de la crise mondiale (女性の貧困化に社会はどう立ち向かうのか：グローバル危機の中での日仏比較), Institut des Sciences Sociales de l’Université de Tokyo (東京大学社会科学研究所研究シリーズ), Collection Recherche, p.103-117, 2010.

Malinas, David-Antoine, and Mélanie, François. “Ce que je vois dans la rue, moi, femme SDF : activités du groupe Nora et Kitchen 246” par Misako ICHIMURA (「路上生活から見えること - ノラの活動と246キッチン」), dans La société face à la pauvreté des femmes : comparaison France-Japon à l’heure de la crise mondiale (女性の貧困化に社会はどう立ち向かうのか：グローバル危機の中での日仏比較), Institut des Sciences Sociales de l’Université de Tokyo (東京大学社会科学研究所研究シリーズ), Collection Recherche, p.84-90, 2010.

Malinas, David-Antoine, Giraudou, Isabelle, and Sasanuma, Hiroshi, “Un aperçu de la



protection des droits sociaux au Japon (「社会権・国家賠償請求権」),” Ebisu n°43, printemps-été 2010, p.55-82, 2010.

#### 1-4 口頭発表

Ayumi Takenaka, Discussant, Conference on “Skilled Migration to Japan,” Temple University, Tokyo, Japan, July 8, 2009.

Ayumi Takenaka, Presenter, “Who Stays and Who Moves On: Peruvian and Brazilian Migrants’ Movements to and out of Japan,” Anthropology of Japan in Japan Annual Conference, Temple University, November 8, 2009.

竹中歩「移民の教育の『問題』について」、比較移民研究会、東北大学、2009年12月19日。

Ayumi Takenaka, Presenter, “Mobility of Talent or Brain Circulation: Implications for Japan,” Promoting Research and Debate on Asia, Institute of Contemporary Asian Studies, Temple University, January 7, 2010.

Ayumi Takenaka, Presenter, “Cultural Encounters and Global Human Mobility,” Japan-Europe International Seminar, Kyushu University, February 4, 2010.

Ayumi Takenaka, “Immigrant Communities in Philadelphia,” Asian Studies Program, University of Pennsylvania, March 16, 2010.

Ayumi Takenaka, Discussant, “The Japanese Family in Transition,” Association of Asian Studies Annual Meetings, Philadelphia, March, 2010.

Ayumi Takenaka, Presenter, “The Politics of Descent: Nikkeijin in Japan and in Latin America,” Conference on “Nikkei Diaspora Comparative Perspectives—Japan, Mexico, and America,” El Colegio de Mexico, Mexico City, March 20-22, 2010.

Ayumi Takenaka, Presenter, “Seeking the Best and Brightest: Global Competition for Asian Talent,” International Conference on “Migration in China and Asia: Experience and Policy,” Institute of Ethnology and Anthropology, Beijing, May 20-21, 2010.

竹中歩「アジアの人口移動と日本」、アジアの移動、東北大学主催シンポジウム、2010年10月15日。

Dujarric, Robert and Takenaka, Ayumi. “The Return of Sakoku: Reverse Globalization in Japan” (guest lecture), Temple University Japan, December 2, 2010.

Takenaka, Ayumi. “Immigration to Philadelphia,” Great Work Symposium on Global Cities, Drexel University, February 3, 2011.

Takenaka, Ayumi. “Social Mobility of Immigrants and Social Inequality in Japan,”

- International Symposium on Risk and Institutional Change, Bryn Mawr College, February 4-5, 2011.
- Takenaka, Ayumi. "Foreign Migrants' Mobility and Strategies in Japan," the Southern Japan Seminar, Florida International University, March 15, 2011.
- Takenaka, Ayumi. "Ageing and Migration," Metropolis Conference, Azores, September 13-17, 2011.
- Tomohiro Kumagai and Kees van den Bos (February 6, 2009), "The Machiavelli effect of power priming on moral dilemma," Poster presentation at the 10th annual meeting of the society for the personality and social psychology, Tampa, USA, February 4-6, 2009.
- Tomohiro Kumagai, "Social justice, group identification, and intergroup conflict: An examination for Group-Justice Dilemma model," Social justice, social stratification, and intergroup conflict. International symposium of Tohoku University Global COE program, Sendai International Center, Miyagi, February 24, 2009.
- Tomohiro Kumagai, Nobuyoshi Kawashima, and Nobuko Asai, "The effects of intranational justice on the sense of intranational injustice," 22nd Annual International Association for Conflict Management Conference, Kyoto, Japan, June 16, 2009.
- Tomohiro Kumagai, "The power and 'Kantian imperative': The effect of power salience on interventional decision in the loop dilemma situation," The 17th Annual Meeting of the European Society for Philosophy and Psychology, Central European University, Budapest, Hungary, August 27, 2009.
- Tomohiro Kumagai, "Does fair government engender inter-national conflict? The ironical relationship between intra-national justice and inter-national justice," Political Violence and Collective Aggression: Considering the Past, Imagining the Future, Belfast, UK, September 5, 2009.
- Hyun Sun Lee, "Globalisation and Ethnic Inequality," Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, University of California, Riverside, U.S.A., May 29-30, 2009.
- Hyun Sun Lee, "Social Welfare and Ethnic Inequality in Japan: A Case Study of a Non-Profit North Korean Social Welfare Organization in Japan," The Society for East Asian Anthropology (SEAA) Conference, Taiwan, July 5, 2009.
- Hyun Sun Lee, "Welfare state and ethnic acculturation: A Case Study of a Non-Profit

- North Korean Social Welfare Organization in Japan,” The 82nd Annual Meeting of the Japan Sociological Society, Rikkyo University, October 12, 2009.
- Hyun Sun Lee, “State welfare policy changes and ethnic integration,” International Symposium on “Risk, Social Stratification, and Changes in Institutions,” Bryn Mawr College, Bryn Mawr, USA, February 2-3, 2011
- Hyun Sun Lee, “State Policy and the Diversity of Acculturation,” The 84<sup>th</sup> Annual Meeting of Japan Sociological Society, Kansai University, September 17, 2011
- Imai, Jun. “Reform Without Labor: The Transformation of Japanese Employment Relations since the 1990s,” CSSI Workshop, Global COE Program: Center for the Study of Social Stratification and Inequality, Tohoku University, April 13th, 2009.
- Imai, Jun. “‘From Corporate-Centered Society’ to ‘?’: Japan’s Next Welfare-Employment Regime,” University of California Riverside and Tohoku University Joint Symposium on Globalization, Inequality and Social Stratification, at University of California, Riverside, USA, May 29th and 30th, 2009.
- Imai, Jun. “Changing Employment Relations and the Renegotiation of Gender Relations in Japan: The Demise of Corporate-centered Society,” Tohoku-Stanford Summer School, at Tohoku University, Sendai, July 15th, 2009.
- Imai, Jun. Chair for the session “Governing Risks in East Asian Societies,” Annual Conference of German Association for Social Science Research on Japan (VSJF), VSJF in cooperation with the National Institute of Chinese Studies - White Rose East Asia Center - UK (WREAC), The Japanese-German Center Berlin (JDZB), Germany, November 19-22, 2009.
- Imai, Jun. with Yoshimichi Sato, “Regular and Non-regular Employment as an Additional Duality in Japanese Labor Market: Institutional Perspective on Career Mobility,” The Fourth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, organized by CSSI, Tohoku University, Yonsei University and Chung-Ang University, Sendai, March 13-14, 2010.
- Imai, Jun. Chair and organizer of the panel, “Visions and Strategies of Labor Movements in Post-Deregulation Era,” Annual Conference of Asian Studies Conference Japan (ASCJ) at Waseda University, June 19-20, 2010.
- Imai, Jun. “The limit of equality by ‘company citizenship’: the politics of labor market segmentation in the case of regular and non-regular employment in Japan,” Annual Conference of Asian Studies Conference Japan (ASCJ) at Waseda University, June

19-20, 2010.

Imai, Jun. "The deregulation of working time and the individualization of workplace control in Japan," Annual Meeting of the SASE, Labor market, education and human resource network, Philadelphia, USA, June 26, 2010.

Imai, Jun. "The politics of labor market segmentation in the case of regular and non-regular employment in Japan: the limit of equality by 'company citizenship,'" Tohoku-Stanford Summer School, at Stanford University, Palo Alto, USA, July 26, 2010.

今井順 指定討論者、セッション「社会階層・社会移動研究の新展開」、第38回日本行動計量学会、埼玉大学、2010年9月23日

今井順 指定討論者、日独国際シンポジウム「ライフコース選択の臨界点：生き方はどこまで自由に選べるのか」、ドイツ日本研究所、2010年10月22日、23日

Imai, Jun. "The Deregulation of Working Time: the Discretionary Work System and the Individualization of Workplace Control," 第83回日本社会学会大会、名古屋大学、2010年11月6日、7日

Imai, Jun. "The Deregulation of Working Time and the Individualization of Work-effort Control at Japanese Firms," International Symposium on "Risk, Social Stratification, and Changes in Institutions," Bryn Mawr College, Bryn Mawr, USA, February 2-3, 2011

Imai, Jun. "Strengthening control with no exit: Changes and continuities of employment relation of regular employees in Japan," International Workshop: The Varieties of Capitalism Revisited- Japan and the UK since the 1990s, organized by the White Rose East Asia Centre, University of Sheffield, UK, February 24-25, 2011.

Makiko Nakamuro, "School Attendance and Migrant Remittances in Transition," University of Riverside, California Tohoku University Joint Symposium, Tohoku University, Japan, November 19-20, 2010

Makiko Nakamuro, "The Labor Market Return on Education in the Informal Sector: The Case of South Africa," The Fifth International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Sendai, Japan, January 29-30, 2011

中室牧子「インフォーマルセクターにおける教育の収益率 南アフリカのデータを用いた実証分析」、日本比較教育学会第47回大会、早稲田大学、2011

年 6 月 25 日

中室牧子「インフォーマルセクターにおける教育の収益率 南アフリカのマイクロデータをを用いた実証分析」、日本国際教育学会 22 回会研究大会、首都大学東京、2011 年 9 月 10 日

Tomohiro Kumagai, Nobuyoshi Kawashima, and Nobuko Asai, “The Effects of Intranational Justice on The Sense of International Injustice,” 22nd Annual International Association for Conflict Management Conference, Kyoto, Japan, June 16, 2009.

浅井暢子・唐沢穰・熊谷智博・川嶋伸佳「社会と集団成員性に関する信念が差別認識に与える影響 日本心理学会第 73 回大会 立命館大学 2009 年 8 月 28 日

熊谷智博・川嶋伸佳・浅井暢子「集団内公正が集団間不公正認知に与える影響」日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会 大阪大学 2009 年 10 月 11 日

川嶋伸佳・熊谷智博・浅井暢子・大淵憲一「抗議行動の規定因 - 不公正感、社会不変信念、社会的効力感、変革コストの影響 -」日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会 大阪大学 2009 年 10 月 11 日

浅井暢子・唐沢穰「差別被害の表明に相手との関係性が与える影響」日本社会心理学会第 50 回大会・日本グループダイナミクス学会第 56 回大会合同大会 大阪大学 2009 年 10 月 12 日

Nobuko Asai, “Coping strategies for group-based inequality: The Role of Causal Explanation,” International Symposium “How do people react when they face social justice/injustice?: Determinants of cooperation and integration,” Miyagi, Japan, November 10, 2009.

Nobuko Asai and Minoru Karasawa, “Influence of Perceived Social Support on Reporting Discrimination,” The 8th Biennial Conference of the Asian Association of Social Psychology, New Dehli, India. December 11-14, 2009.

吉田和博・寺本渉・浅井暢子・日高聡太・坂本修一・行場次朗・鈴木陽一「臨場感の一般的理解-教育的背景の違いに基づく比較」電気情報通信学会ヒューマン情報処理研究会 東北大学 2009 年

Nobuko Asai, Minoru Karasawa, Tomohiro Kumagai, and Nobuyoshi Kawashima, “Recognizing Personal Experiences of Discrimination: Impact of Essentialist Beliefs

- of Group Differences and Social Structure,” Society for Personality and Social Psychology 11th Annual meeting, Las Vegas, USA, January 29, 2010.
- Nobuyoshi Kawashima, Ken-ichi Ohbuchi, Tomohiro Kumagai, and Nobuko Asai, “Perceptions of unfairness and social protests among Japanese: Effects of the immutability belief,” Society for Personality and Social Psychology 11th Annual meeting, Las Vegas, USA, January 30, 2010.
- Nobuko Asai, “Determinants and consequences of causal explanation of discrimination,” The 4th International Symposium on Frontiers of Sociological Inquiries by Young Scholars in Asia, Miyagi, Japan, March 14, 2010.
- 寺本 渉・吉田和博・日高聡太・浅井暢子・行場次朗・坂本修一・岩谷 幸雄・鈴木陽一 「『迫真性』の追求 本物らしさを定義する時空間情報」 日本認知心理学会第 8 回大会 西南学院大学 2010 年 5 月 30 日
- Nobuko Asai, Minoru Karasawa, and Ken-ichi Ohbuchi, “Causal Explanation of Discrimination: Impact of Perceived Immutability of Lay Peoples' Belief,” The 8th Biennial Conference of the Society for the Psychological Study of Social Issues, New Orleans, LA, USA, June 25, 2010.
- 浅井暢子 「信念の不変性に関する認識が差別認知に与える影響」 日本社会心理学会第 51 回大会 広島大学 2010 年 9 月 17 日
- 浅井暢子・唐沢穰 「カテゴリーに対する本質の知覚が合意性推測に与える影響」 日本心理学会第 74 回大会 大阪大学 2010 年 9 月 22 日
- Nobuko Asai, “Recognizing personal experiences of discrimination: impact of perceived immutability of social barrier,” CSSI International Symposium on Intergroup Conflict and Social Identity: Impact of History, Continuity and Stability of Group,” Miyagi, Japan, November 27, 2010.
- Gisun Jang, “Family Register System and Medical Doctors in the Meiji Era Japan,” The 2<sup>nd</sup> Korea-China Joint Conference on Medical History, Yonsei University, Seoul, Korea, February 12-13, 2009.
- Gisun Jang, “The Establishment of Modern State and the Social Role of Professional Class in Japan: The Case of Physicians,” The Society for East Asian Anthropology (SEAA) Conference, Taiwan, July 5, 2009.
- Tsuchida, Kumiko, “Community Rebuilding and the Stories of the Internment: A Case Study of ‘Day of Remembrance’ in L.A. Japanese American Community,” at International Institute of Sociology 38th World Congress, at Yerevan State

- University, Armenia, June 12, 2009.
- Tsuchida, Kumiko, “Rebuilding Community and Rewriting Collective Memories of WWII: A Case Study of ‘Day of Remembrance’ in the Japanese American Community in Los Angeles” at GCOE workshop, Tohoku University, July 6, 2009.
- 権慈玉「韓国の農民運動と女性—『カトリック農村女性会』（1977～84年）を中心に」日韓次世代国際学術フォーラム、全南大学・韓国、2010年6月22日。
- Jaok KWON, “Forging Women’s Space in Civil Society: A Case Study of the Korean Catholic Women Peasant’s Organization,” Pacific-Asia Conference on Korean Studies, The University of Auckland, New Zealand, November 24-26, 2010.
- 松崎瑠美「日本近世・近代における社会階層とジェンダー」、日韓次世代学術フォーラム第7回国際学術大会、全南大学校、光州広域市、韓国、2010年6月26～27日
- Rumi Matsuzaki, “Positions and Roles of Wives and Concubines in Early Modern and Modern Japan: The Case of the Shimazu Family,” University of California, Riverside-Tohoku University Joint Symposium, Sendai, November 19-20, 2010.
- 松崎瑠美「分科7 宗教・思想」指定討論者、日韓次世代学術フォーラム第8回国際学術大会、東亜大学校、釜山広域市、韓国、2011年8月22～23日
- Kim, Jae-Woo. “Evolutionary Learning in Networked Multi-agent Organizations,” *The Graduate Student Workshop, Genetic and Evolutionary Computation Conference (GECCO)*, Portland, OR, USA, July 7, 2010.
- Kim, Jae-Woo. “Revisiting Durkheim’s Legacies for Evolutionary Theorizing of Institutions,” *The 105<sup>th</sup> Annual Meeting of the American Sociological Association (ASA)*, Atlanta, GA, USA, August 15, 2010.
- Kim, Jae-Woo. “Class, Community, and Social Ownership of Capital: The Case of Urban Politics in Pittsburgh,” *The 105<sup>th</sup> Annual Meeting of the American Sociological Association (ASA)*, Atlanta, GA, USA, August 16, 2010.
- Kim, Jae-Woo. “Trust, Cooperation, and Market Dynamics,” *The 50<sup>th</sup> Japanese Association of Mathematical Sociology (JAMS) Conference*, Saitama, Japan, September 10, 2010.
- Kim, Jae-Woo and Hiroshi Hamada. “Evolution of Cultural Groups from Parochial Cooperation: A Mathematical and Computational Study,” *The 2011 Pacific Sociological Association (PSA) Annual Meeting*, Seattle, WA, USA, March 10, 2011.
- Kim, Jae-Woo and Vincent Buskens. “Similarity-based Cooperation in Finite

- Populations,” *The 2011 International Conference on Social Dilemmas*. Amsterdam, the Netherlands, July 7, 2011.
- Kim, Jae-Woo and Yoshimichi Sato. “Trust, Wealth Inequality, and Market Formation,” *The 106<sup>th</sup> Annual Meeting of the American Sociological Association (ASA)*, Las Vegas, NV, USA, August 21, 2011.
- Kim, Jae-Woo and Hiroshi Hamada. “Replicator Dynamic of Tag-based Prisoner’s Dilemma,” *The 106<sup>th</sup> Annual Meeting of the American Sociological Association (ASA)*, Las Vegas, NV, USA, August 20, 2011.
- Kim, Jae-Woo. “Interpersonal Trust and Social Networks in Korean Society: A Multilevel Approach” or “A Mathematical Model of Trust Formation: Network as Information and Interaction Structure,” (Expected at *The 2011 Korean Sociological Association Meeting*, December 2011, Republic of Korea)
- Kim, Jae-Woo and Hiroshi Hamada. “The Dilemma of Ethnocentrism between Scalability and Stability,” (Expected at *The 2012 Pacific Sociological Association Annual Meeting*, San Diego, CA, USA, March 2012).
- Xie, Xiaojing, “An empirical study on JCM: Based on the data from a state-owned enterprise in China”, CSSI workshop, Tohoku University, September 26, 2011.
- Xie, Xiaojing, “An empirical study on JCM: Based on the data from private enterprises in China”, Stanford University and Tohoku University Winter School, Stanford University, USA, December 5-10, 2011.
- Xie, Xiaojing, An empirical study on JCM: Based on the data from China, University of California, Riverside-Tohoku University Joint Symposium, University of California, Riverside, USA, February 2-3, 2012.
- Malinas, David-Antoine, “Le travail précaire au Japon,” Maison Franco-Japonaise UMIFRE 19 CNRS-MAEE, Séminaire général de recherche du laboratoire de recherche de la Maison-Franco-Japonaise, 19 janvier 2009, Tokyo. (「日本における貧困労働」、日仏会館、UMIFRE19、研究総合セミナー、日仏会館、2009年1月19日)
- マリナス・ダヴィド＝アントアヌ、藤田廣登、増山麗奈（コーディネーター）  
「蟹工船とロスジェネの若者」、中央区平和プラザ 2009、東京、2009年3月7日、(Malinas, David-Antoine, Fujita, Hiroto, and Masuyama, Rena (coordinatrice), “Kaniko sen et les jeunes de la génération perdue,” Le plaza de la paix 2009, arrondissement de Chûo, 7 mars 2009, Tokyo.)



Malinas, David-Antoine, “Espace public, Logements privés : Situation et politiques publiques à l’égard des sans-abri au Japon,” Séminaire urbanisme, logement et marchés immobiliers à Tokyo, bureau régional CNRS Asie du Nord, vendredi 22 mai 2009, Tokyo. ( 「公共空間、私営住宅：日本におけるホームレスの状態と対策」、東京における都市計画、住宅と不動産市場セミナー、フランス国立研究所、北アジア部、東京、2009年5月22日。 )

Malinas, David-Antoine, “L’évolution de l’emploi précaire au Japon de 1990 à nos jours, Séminaire de L’institut d’Asie Orientale de Lyon, ENS-LSH, 4 juin 2009, Lyon. ( 「日本における不安定労働の推進と変化：1990-現在」、研究セミナー、リオン東アジア研究所、ENS-LSH、リオン(フランス)、2009年5月22日。 )

Malinas, David-Antoine, “Young workers Labor Union and the revival of Japanese labor movement,” Panel 3 “Politics of Employment and Unemployment,” Youth Work in contemporary Japan Symposium, Temple University, Tokyo, June 28, 2009. ( 「若年労働者と日本労働運動の復活」、パネル 3：労働と失業に対する対策、現代日本における若年労働シンポジウム、テンブル大学、東京、2009年6月28日。 )

Malinas, David-Antoine, “Young workers mobilization,” Center for the Study of Social Stratification and Inequality Workshop, Tohoku University, Sendai, July 6, 2009. ( 「若年労働者の動員」、社会階層と不平等研究教育拠点ワークショップ、東北大学、仙台、2009年7月6日。 )

Malinas, David-Antoine, “Les politiques publiques en faveur des sans-abri au Japon (1990-2010): Une approche en terme de construction sociale,” Session E Politiques en faveur des exclus et politiques dirigées vers les phénomènes qui conduisent à l’exclusion : le cas français”, Symposium ( 「日本のホームレス対策(1990-2010)」、シンポジウム「排除なき社会をつくることはできるか：日本とフランスの視点」パネルE、日仏会館、東京、2009年10月18日。 )

Malinas, David-Antoine, “Mouvement sociaux en France,” Séminaire, mouvements sociaux (Professeur Hasegawa), Université du Tohoku, 9 novembre 2009. ( 「フランスにおける社会運動：1970-2009」、社会運動セミナー(長谷川公一)、東北大学、仙台、2009年11月9日。 )

マリナス・ダヴィド = アントアヌ「弱者の社会運動と社会移動」、『移動』する社会について融合研究」研究会、国際高等研究教育機構、東北大学、仙台、

2010年1月27日。

Malinas, David-Antoine, “Welfare new deal in Japan? Homeless and the growing role of NPOs,” Center for the study of social stratification and inequality, Structure and Change Division research seminar, February 3, 2010. (「日本における社会福祉のニュー・ディール・ホームレス対策とNPOの新たな役割」、社会階層と不平等研究教育拠点、構造と変動研究部門セミナー、東北大学、仙台、2010年2月3日。)

マリナス・ダヴィド＝アントアヌ「融合研究として弱者の社会運動と社会移動」、第3回国際高等融合領域研究所セミナー、国際高等研究教育機構、東北大学、仙台、2010年2月10日。

Malinas, David-Antoine, “Cross-Methodological approach on Japanese Labor Movement Revival: The Case of Seinen Union (「融合方法論に基づく、日本における労働運動の再生：首都圏青年ユニオンの事例から」),” Session “Visions and Strategies of Labor Movements in the Post-Deregulation Era,” The Fourteenth Asian Studies Conference Japan (ASCJ), Waseda University, June 19-20, 2010.

Malinas, David-Antoine, “Conférence : La lutte des sans-abri et le renouveau du militantisme au Japon”, Inalco, Université de Paris IX Dauphine, Amphi 1, 26 octobre, 17h15-18h45. (講義：“日本におけるホームレスの社会運動と市民社会の再生”、Inalco、パリ第IX大学・ドーフィン、2010年10月26日)

Malinas, David-Antoine, “Homeless people social movement in Japan and the new dynamic of civil society in Japan,” UC Riverside-Tohoku University Joint Symposium, Tohoku University, Sendai, Japan, November 19-20, 2010.

Malinas, David-Antoine, “Dimension économique du problème sans-abri au Japon,” Intervention au colloque international « La rue : Y tomber, y vivre, s’en sortir et ne pas y retomber », Homeless World Cup, Paris, August 23, 2011. (「日本におけるホームレス問題：経済的な特質」、国際シンポジウム、Homeless World Cup)

Malinas, David-Antoine, “More Poor, Fewer Homeless? Methodological Limits in Homeless Survey in Japan,” Panel Contemporary Populations of Japan, 13th International Conference of EAJS, Tallinn, August 25, 2011.

## **教員・研究員による競争的資金獲得 (プログラム開始から2011年度末)**

### **(1) 科学研究費補助金**

(平成 21 年度)

熊谷智博 若手研究 (B) 「集団間の信頼・協力関係形成に関する社会心理学的研究」 (課題番号 19730382) 直接経費 900,000 円、間接経費 270,000 円

李賢鮮 若手研究 (スタートアップ) 社会制度の生産と消費: 韓国と日本の介護保険制度の比較研究 (課題番号 21830016) 直接経費 1,070,000 円、間接経費 321,000 円

(平成 22 年度)

竹中歩 基盤研究 (B) 「多文化」時代における日本の社会不平等: 人の移動と格差問題の関係を探る (課題番号 23330142) 直接経費 4,000,000 円、間接経費 1,200,000 円

李賢鮮 研究活動スタート支援 社会制度の生産と消費: 韓国と日本の介護保険制度の比較研究 (課題番号 21830016) 直接経費 960,000 円、間接経費 288,000 円

マリナス・ダヴィド = アントアヌ 基盤研究 (B) 研究分担者 政権交代と社会運動: 民主党政権は社会運動にどのような影響を及ぼすのか (課題番号 22330150) 直接経費 460,000 円、間接経費 138,000 円

(平成 23 年度)

竹中歩 基盤研究 (B) 「多文化」時代における日本の社会不平等: 人の移動と格差問題の関係を探る (課題番号 23330142) 直接経費 4,500,000 円、間接経費 1,350,000 円

今井順 基盤研究 (C) 知識・サービス経済における新しい男性性 福祉雇用レジームの変化に関する基礎的研究 (課題番号 23530641) 直接経費 400,000 円、間接経費 120,000 円

## (2) その他

(平成 22 年度)

権慈玉 生協総合研究所助成事業 「韓国における地産地消運動と女性農民のエンパワーメント 全国女性農民総連合の「菜園作り事業」の事例から」、生協総合研究所、300,000 円

Jaok KWON Korean Studies Grant, "Women's Citizenship and Civil Society in South Korea: Gender Politics in Labor Movements", Academy of Korean Studies, 7,400US Dollar

Jaok KWON POSCO Visiting Fellowship, "Gender Relations in Labor Movements in

South Korea", East-West Center, 10,000US Dollar

(平成 23 年度)

今井順 村田学術振興財団研究助成金「グローバル化の進展に伴う労働市場構造の再編成と雇用・生活リスクの変動に関する融合的研究」(研究代表者 佐藤嘉倫教授:2012 年 6 月まで)

## 教員の教育活動

### (1) 学内授業担当 (2011 年度)

#### 1 大学院授業担当

竹中歩 准教授

1 学期 社会変動学研究演習 Immigration and Social Inequality-An Introduction

1 学期 英語研究論文作成法 Advanced Academic Writing and Presentation

2 学期 社会変動学研究演習 Immigration and Social Inequality II

2 学期 英語研究論文作成法 Advanced Academic Writing and Presentation

今井順 助教

1 学期 社会行動科学特論 Employment in East Asian Societies

1 学期 社会行動科学特論 Research Design and Data Analysis

2 学期 社会行動科学特論 Issues of Employment Relations in Japan

李賢鮮 助教

1 学期 社会学特論 Research Design and Data Analysis

2 学期 社会学特論 Globalization, Development and Policy

中室牧子 助教

1 学期 社会学特論 Education and Economic Development I

2 学期 社会学特論 Education and Economic Development II

### (2) 他大学への出講 (プログラム開始から 2011 年度)

熊谷智博

宮城県高等看護学校 担当科目:心理学 2009 年 4 月~2009 年 11 月